

令和 8 年度東北ブロック DMAT 参集訓練にコントローラーとして参加しました (2026/10/2-4)

テーマ：DMAT、ブロック参集訓練、施設支援

場所：福島整肢療護園（福島県いわき市）

2026 年 10 月 2 日（金）から 4 日（日）にかけて、福島県を会場として令和 8 年度東北ブロック DMAT 参集訓練が開催されました。佐々木宏之准教授（災害医療国際協力学分野）が訓練コントローラーとして訓練に参加しました。

この訓練は、東北ブロック 7 県（青森、秋田、山形、岩手、宮城、福島、新潟）が持ち回りで年に一度開催します。主催県での大規模災害発生を想定し、他の 6 県から派遣される DMAT の参集、分配、本部・現場活動などをブラインドで実施する実地訓練です。今年度は東北地方太平洋沖を震源とする M8.5 の地震・津波が発生し、福島県の相双地区やいわき地区に大きな被害が発生、また福島第一原子力発電所構内で放射性物質汚染傷病者多数発生した、との想定で訓練が実施されました。東北 7 県から約 400 名の DMAT 隊員がプレーヤーとして、また約 60 名が訓練コントローラーとして訓練に参加しました。

今回の想定では、福島県内にある高齢者福祉施設、障がい者施設などでも被害が発生し、DMAT が派遣されるシナリオでした。福島県内では初めて病院以外の施設も実動訓練に参加し、佐々木准教授はいわき市にある福島整肢療護園に訓練コントローラーとして派遣されました。初日の 2 日（金）には訓練打ち合わせと BCP 点検、2 日目の 3 日（土）には支援 DMAT を受け入れる実動訓練で想定付与や訓練支援を行いました。

福島整肢療護園は、肢体不自由児・者、医療型障害児・者が入居する病院と施設の機能を合わせ持つ特殊な施設です。連携する行政のカウンターパートも多く（いわき市保健所、県児童家庭課、県地域医療課など）、病院としての EMIS 発信、福祉施設としての災害時情報共有システムへの発信など、多くの対応を迫られます。停電、上水停止の想定下、吉原康園長先生ら職員と東北医科薬科大学病院・岩手県立中央病院 DMAT は協力して被災情報収集・分析・方針決定を行い、本部運営を行いました。振り返りでは、支援 DMAT から「医療者は施設の特色を知ってから支援に入るべき」だとの声や、施設側から「制服を着た DMAT が 2 チーム来園した際は緊張したが、隊員の声掛けで気持ちが柔らかくなった」、「DMAT 看護師の声掛けに癒された」、「BCP、災害対策マニュアルを更新したい。訓練に参加して良かった」などの声があがりました。佐々木准教授は、自身の BCP 研究の知見を生かし、福島整肢療護園 BCP の更新に協力する予定です。



いわき市の福島整肢療護園



施設職員と支援 DMAT が協力し
被害状況把握と方針決定を行う